

地點數六、其ノ馬力數一二、一二〇ニ達ス

水方地點ノ説明

順位九九六 左岸ニ取入レ河川ノ屈曲ヲ利用ス。灌溉用水四箇所(反別四五四二町步)ニ對スルモノアリ利用ニ際シ之ニ水量六箇ヲ分水スルモノトス

順位九九七 取入口ニ堰堤ヲ築キ水位ヲ約一〇尺高メテ右岸ニ取入レ河川ノ屈曲ヲ利用ス、隧道約一、〇五〇間、開渠約一、一二〇間ナリ。用水關係ナシ、南海水力電氣株式會社ニ許可)

順位九九八 主トシテ河川ノ屈曲ヲ利用スルモノニシテ右岸ニ取入レ隧道約一、四〇〇間、開渠約二、〇〇〇間トス、灌溉用水一箇所(反別二五一八町步)ニ對シ水量三箇ヲ分水スルノ必要アルモ利用水量ハ流域一方里ニ對シ順位二五二號測水所ノ流量ヲ以テスレハ是等用水ニハ何等ノ影響ナキモノト認ム

以上三地點トモ流木盛ナルヲ以テ之カ計畫ニ對シテ相當ノ方法ヲ講シ流下ニ支障ナカラシムルノ要アリ

第五章 吉野川水系(紀州)

第一章 概説

地形 本川ハ上流ヲ吉野川ト云ヒ水源ヲ大和ノ中部ニ發シテ西流シ紀伊ニ入リテ紀ノ川ト稱セラレ紀伊水道ニ注クモノニシテ流路約三四里、流域面積一一一方里ナリ大臺ケ原山ハ其ノ東南ノ水界ヲナシテ高ク海拔一六〇〇米ヲ超エ之ヨリ西方ニ分レテ熊野川トノ分水嶺ヲナセル山脈ニハ伯母嶽、山上嶽、大天井嶽等ノ高峯アリ此ノ山脈ハ尙西ニ馳セ紀伊ニ入リテ長峯山脈ヲ形成シ以テ紀ノ川ノ南部ヲ擁シ有田川流域トノ分水嶺ヲナス。大臺ケ原山ヨリ伊勢國境ニ沿フテ北方高見山ニ至ル連嶺ハ本流域ノ東部ヲ劃シ又三畝山脈ハ高見山ヨリ西方ニ連互シテ吉野川流域ノ北部ヲ限リ木津、大和ノ二川ト界シ更ニ紀泉國境ニ馳セテ和泉山脈トナリ紀ノ川流域ノ北部ヲ劃ス。吉野川ノ上流地方ハ峻峻ナル山地ニシテ山高ク谷深ク下流部ニ至リテ稍開ケ諸所ニ丘陵臺地ヲ形成シ紀ノ川トナリ初メテ河岸平坦ナルヲ見ル

地質 吉野川流域ハ北方分水嶺ニ沿ヒテ片麻岩東西ニ

帶狀ヲナシ又上市町ヨリ下流沿岸ニハ多少ノ洪積層ヲ見ルモ其ノ他ハ概ネ秩父古生層ヨリ成リ沿岸諸所ニ石灰岩ヲ露出ス。下流紀ノ川流域ハ和泉山脈ニ中生層ヲ露出シ其ノ南ニ接シテ洪積層ヲ開キ紀ノ川ヲ隘エテ白堊紀層トナリ長峯山脈ニ古生層ヲ見ル

地目面積表

Table with columns for River Name, Land Use (耕地, 原野, 山林), and Area (面積, 百分率). Includes data for 吉野川 and 同 (Average).

ハ劃然トシテ普ク全山ヲ覆ヒ營林事業ノ模範トナスヘキモノ多シ而シテ入ノ波以上ニ至レハ造林漸ク減シテ多ク斧鉞ヲ加ヘサル樅、榎、樟、橡等ノ自然林トナリ頂上ニ至レハ檜、樅、水松等ノ老樹鬱蒼トシテ繁茂セリ、支流四郷川流域亦杉ノ植林地ヲ以テ充タサレ其ノ林況本川ニ劣ラス下リテ中莊村ニ至レハ松柏林次第ニ多ク大淀町ヨリ下流ニ於テハ概ネ幼齡ノ雜木林ナリ。耕地ハ四郷川支流高見川

ノ上流吉野川ノ國樺村ヨリ下流沿岸ニ多少存在スルモ吉野川ノ上流川上村、四郷川流域ナル小川村、四郷村等ニ於テハ極メテ僅少ナル耕地ヲ認ムルノミ而シテ下流紀ノ川ノ沿岸ハ廣潤ニシテ良田多シ

氣象狀態 雨量ハ和歌山附近ニ於テ一、六〇〇耗内外ヲ保テ山間部ニ至ルニ從ヒ漸次増加シ川上村ニ入りテ二、〇〇〇耗ヲ超エ大字入ノ波ニテ三、二〇〇耗ヲ示シ大臺ヶ原山觀測所ニテハ六、三九〇耗ニ達ス、支流ニ於テハ四郷川二、〇〇〇耗、貴志川一、六〇〇耗内外ニシテ丹生川最寡ク一、五〇〇耗内外ナリ。氣温ハ山間部最冷地ニテ平均一四度内外トス

第二節 吉野川

一、河川狀況 上流ヲ本澤ト稱シ水源ヲ吉野郡川上村ナル大臺ヶ原山ニ發シテ西北ニ向ヒ右支北股川ヲ合シテ吉野川トナル、ソレヨリ入ノ波ヲ過キ數多ノ小流ヲ合セツツ西北ニ向ヒ大瀧ヨリ東北ニ折レ西北ニ轉シテ東方ヨリ來ル四郷川ヲ合シ後西方ニ轉シテ上市、下市ノ諸邑ヲ過キ南宇智村ニテ左支丹生川ヲ容レ紀伊ニ入り紀ノ川ト稱セラレ九度山町ニテ左支丹生川ヲ合セ岩出町ニテ左支貴志川

ト合シ和歌山市ニ至リテ海ニ入ル。此ノ流路約三四里ナリ 川上村ヨリ上流ハ兩岸概ネ絶壁ニシテ谷深ク岩盤露出屹立セリ河床ハ上流ヨリ概ネ砂礫ニシテ岩盤ヲ露ス所ハ柏木、追犬瀧附近ノ一小部分ノミナリ、大瀧ニ數段ノ瀑流ヲ見ルノ外流下勾配一般ニ緩ニシテ入ノ波ヨリ下流ニ於テハ一〇〇分ノ一ヲ超ユル所少シ國樺村ヨリ下流ニ於テハ沿岸ニ耕地ヲ見ルモ宮瀧附近ハ岩盤隆起シテ深淵ヲナシ

吉野川流量表

Large table with columns for River Name, Measurement Station, Area, and Flow (Year, Max, Avg, Min, etc.). Includes data for 吉野川 and 同 (Average).

其ノ水面幅ハ僅ニ數間ニ過キス宮瀧以下右岸ハ耕地ニ接シテ河幅廣ク左岸ハ概ネ山地ニシテ下市ヨリ小島ニ至ル間ハ兩岸丘陵相通リテ屈曲多ク河幅狹ク河岸河床ニ岩盤ヲ見ル、小島ヨリ下流ハ兩岸全ク開ケテ岸低ク水流緩ニシテ河床ニ砂礫多シ 水力ヲ利用シ得ヘキ範圍内ニ於ケル河川勾配左ノ如シ 自入ノ波 至迫 (一〇、六二〇間) 一五六分ノ一

自迫 至大瀧 (二、五二〇間) 一九二分ノ一
 自大瀧 至宮瀧 (七、六八〇間) 二二六分ノ一
 自宮瀧 至上市 (二、八二〇間) 四二〇分ノ一
 自上市 至下市 (三、二八〇間) 三五八分ノ一
 自下市 至小島 (六、四五五間) 三七八分ノ一

本川ニ於ケル洪水位ハ比較的高ク出水ニ際シテハ大瀧附近及東阿田附近ニ於テ三〇餘尺ニ達シ往々河床ニ大ナル變化ヲ生スルコトアリ

本川ノ流量ハ一般ニ冬季ニ最濁水ヲ來シ秋季モ亦稍之近ク春季ヨリ初秋ニ互リテハ高水若ハ低水多ク最大洪水期ハ概ネ夏季若ハ秋季ナリ

水期ハ概ネ夏季若ハ秋季ナリ
 三、水利及治水 灌漑用水ハ紀ノ川ニ多キモ吉野川ニハ全ク其ノ跡ヲ見ス。流水ハ頻繁ニシテ其ノ數量モ亦多シ而シテ之カ流下ハ四季ヲ通シテ行ハルレトモ夏季出水期ヲ避ケンカタメ冬季流量ノ激變ナキ期ヲ選ミテ行ハルルヲ普通トシ上流部ハ河川ノ各所ニ堰ヲ設ケテ貯水シ後ノ一所ニ集リ來ルヤ一時ニ堰ヲ撤シテ流下スルモノニシテ其ノ起點ナル川上村大字二股ヨリ同村大字西河ニ至ル約六里ノ間ニ於テハ幅四尺長サ三〇間ノ筏ヲ以テ一繋トナシソレヨリ下流ニ於テハ二繋ヲ併セテ一鼻ト稱シ河口迄

年	一月		二月		三月		四月		五月		六月		七月		八月		九月		十月		十一月		十二月		計
	數	積	數	積	數	積	數	積	數	積	數	積	數	積	數	積	數	積	數	積	數	積	數	積	
大正元年
大正二年
大正三年
大正四年
大正五年
大正六年
大正七年
大正八年
大正九年

流下ス而シテ材種ハ杉丸太ヲ主トシ二間乃至三間材多シ。今橋本町妻木材検査所ニ就テ調査セル最近九箇年間ノ月別流材數量ヲ示セハ右表ノ如シ

漁業ハ鮎、鯉、鰻等ヲ主トシ其ノ産額多額ニシテ特ニ鮎ハ香氣ニ富ミ京阪市場ニ供スルモノ多シ

大瀧南橋井間ニハ大正水力電氣株式會社ニテ工事中ノ水力地點二箇所アリ

四、水力地點 選定水力地點數五其ノ平水馬力數二六、二五八ナリ其ノ中二箇地點ハ本調査期間中ニ於テ水利使用ヲ許可セラレタルヲ以テ將來利用開發シ得ヘキモノハ三地點、一、二、六三〇馬力ナリ。今之ニ許可水力地點支流ノ地點ヲ除クヲ加算スルトキハ本川ニ於ケル總水力地點數五、其ノ馬力數一八、六五七ニ達ス

吉野川水力地點表 順位ニ()ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	互水長	面積	發電率	年平均電力數	等級
九九九	吉野川	一	奈良縣吉野郡川上村入ノ波下黒田	同郡川上村權谷	平水 一六一 低水 一一三 濁水 一五五	一五四	一九三二	二七六〇	五、六〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	乙
一〇〇〇	同	二	奈良縣吉野郡川上村下多古向畑	同郡川上村清水	平水 三六五 低水 二五六 濁水 一四〇	一一六	三、二九六	二、七五〇	二、九五	一、〇〇〇	一、〇〇〇	乙
(一〇〇一)	同	三	奈良縣吉野郡川上村追谷口	同郡中莊村茶摘花籠	平水 四〇六 低水 二八五 濁水 一四〇	二七二	八、六〇五	四、〇五〇	一、四〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	甲
(一〇〇二)	同	六	奈良縣吉野郡中莊村喜佐谷「トヤサ」	同郡「吉野村飯貝」	平水 四五七 低水 三二〇 濁水 一九一	二七	九、二九	一、六〇〇	二、七七一	一、〇〇〇	一、〇〇〇	丙

順位	河川	番地	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	巨水長路	面積	能發電	年平均馬力數	等級
一〇三	吉野川	七	奈良縣宇智郡大阿太村 佐名傳大阿太原	同郡大阿太村 小島 柏木原	洪水 二六〇 低水 四二二 平水 六二二	七五	二一六五 三五一三 五一七八	二八〇〇	三七六九	一〇〇〇 九三五	二一三五 三三五五	乙

水力地點ノ説明

順位九九九 兩入口ニ堰堤ヲ築キ水位ヲ二〇尺高メテ右岸ニ取入レ隧道約五〇〇間開渠約二二六〇間ヲ開鑿ス、兩岸ノ山勢極メテ急峻ニシテ而モ運搬ノ便開ケス

順位一〇〇〇 左岸ニ取入レ隧道約七〇〇間開渠約二〇五〇間ヲ開鑿ス。沿岸ニ道路開通スルモ起伏多ク兩岸ノ山勢概ネ急峻ナリ

順位一〇〇一 左岸ニ取入レ河川ノ屈曲ヲ利用ス開渠一、八〇六間、隧道二、二四四間ナリ。山勢著シク急ナラス且沿岸ニ平坦ナル道路アリ其ノ大部分ハ大正水力電氣株式會社ニ許可

順位一〇〇二 左岸ニ取入レ開渠約一、六〇〇間、隧道約二〇〇間ヲ開鑿ス。本地點ハ河川ノ洪水位高キヲ以テ有效落差ハ甚タシク減少シ踏査ノ際ニ於ケル豫想ニ反シ其ノ利用ノ價值極メテ少シ其ノ一部分ハ大正水力電氣株式

會社ニ許可

順位一〇〇三 取入口ニ堰堤ヲ築キ水位ヲ約一〇尺高メテ右岸ニ取入レ河川屈曲ヲ利用ス隧道約五〇〇間開渠約二、三〇〇間ナリ。兩岸ハ地形平易ニシテ交通至便ナリ

第三節 四郷川、高見川

一、流域 地形 本川ハ吉野川ノ中流部ニ於テ右岸ヨリ流入スル支流ニシテ其ノ流域ハ奈良縣吉野郡四郷川、高見村及小川村ニ互リテ三角形ヲナシ面積八、六九方里ヲ有ス。流域ノ一角ハ西ニ向ヒ其ノ對邊ハ大和、伊勢ノ國境ヲナシテ南北ニ連亘シ高見山(二、四九米)ハ其ノ中央ヨリ稍北ニ寄りテ聳立セリ。西ヨリ東ニ遡ルコト約三里、小村ニ至ル間ハ山勢急ナレトモ其ノ沿岸ニハ多少ノ平地ヲ存ス谷ハ之ヨリ分岐シ其ノ東南ニ向フモノハ本流ニシテ東方

水源ニハ一、四〇〇米内外ノ高峰ヲ控ヘ南方ニハ一、三〇〇米内外ノ連嶺ヲ有シ地勢極メテ急峻ナリ其ノ東北ニ向フモノハ支流高見川(流域面積三五四方里)ニシテ約一里半、木津ニ至ル迄ハ山勢概シテ急峻ナルモ進ムニ從ヒ谷廣ク緩トナリ所謂高見山ノ裾野ヲナス

地質 概ネ秩父古生層ヨリ成リ高見川ノ北方分水嶺ニ少シク片麻岩ヲ露出ス

林野狀態 四郷川ノ水源ニハ湖葉自然林密生シ老樹ニ

地目面積表

河川名	地目		山地		合計
	耕地	原野	針葉樹林	闊葉樹林	
四郷川 (吉野川合流部以上)	面積(方里)	〇.〇三	五.〇〇	二.二六	七.二〇
	面積百分率	一.一六	六.九三	三.一三	一一.二二

富ム。高見川ハ其ノ上流片麻岩質ヨリ成レル地域ニ多少ノ雜木林及ヒ草原アリ其ノ他ハ全部杉、檜ノ老幼樹林ヲ以テ覆ハレ耕地トシテハ沿川部落ノ周圍ニ於テ極メテ狭少ナル田畑、桑園アルヲ見ルノミナリ

二、河川狀況 四郷川ハ本流域ノ東南隅ニ發源シ數多ノ溪流ヲ合セテ西流シ麥谷ヲ合シ三尾ヨリ北ニ折レ小村ニ於テ右支高見川ト合シ鷺家口ニ於テ右支鷺家川ヲ合セン

レヨリ西南ニ轉シ新子ニ至リテ本流ニ合ス延長約六里ナリ。高見川ハ平野谷、杉谷ノ合流ヨリナリ西ニ流レ木津ヨリ南ニ轉シ後西南ニ折レ小村ニ至リテ四郷川ニ合ス延長約四里トス

四郷川ノ小村ヨリ上流ハ兩岸急峻ナル山地ニシテ平地少ク絕壁ノ箇所多シ、河ハ屈曲ニ富ミ急流ニシテ狭小、小村間平均五七分ノ一ナリ河床ハ多ク砂礫ナルモ麥谷、三尾附近ニハ岩盤露出ス、小村ヨリ下流ニ於テハ屈曲多ク河幅廣シ、流下勾配ハ平均一三八分ノ一ニシテ河床砂礫多シ

高見川ハ上流ニ於テ谷稍開ケ岸低ク緩ナルモ木津、小村間ハ深溪ニシテ屈曲多ク急流ナリ勾配六二分ノ一ヲ有シ河床概ネ砂礫ヨリナル。本支川トモ兩岸ノ地盤ハ概ネ良好ニシテ河床、兩岸ハ比較的安定ノ狀態ニアリ

四郷川ニ於テハ狹戸以下高見川ニ於テハ木津以下全川ニ互リテ其ノ水力ヲ利用スルコトヲ得ヘシ

本川ニハ測水所ヲ設定セサリシヲ以テ河川流量ノ變化ヲ詳述スル能ハサルモ吉野川上流ニ於ケル變化ト大差ナキカ如シ

三、水利及治水 沿岸耕地ナキニ非サルモ兩岸高ク之カ灌溉ニハ概ネ溪流ヲ利用シ本流ヨリ引用スルモノトシテ

ハ僅ニ高見川上流ニ數箇所アルノミナリ。流木ハ本支川トモ盛ナリ四郷川ニ於テハ三尾ヨリ高見川ニ於テハ木津川ヨリ筏トナシ吉野川ニ流下ス其ノ狀況ハ吉野川本流ト同様ニシテ年流下數量ハ(四郷川高見川左ノ如シ

大正六年 六七二、九六二本
大正七年 五六一、七八八本
大正八年 六二九、七一三本
本川ニハ小川ヨリ中黒ノ間ヲ利用セントスル大阪電氣軌道株式會社ノ許可地點アリ

大正元年 五四七、三三九本
大正二年 四八〇、八一五本
大正三年 四九一、〇三〇本
大正四年 七三四、四五九本
大正五年 七六二、一五五本

四、水力地點 選定シタル水力地點數三、其ノ平水時ニ於ケル馬力數八八五八ニシテ其ノ中一箇地點ハ本調査期間中ニ於テ水利使用ヲ許可セラレタルヲ以テ將來利用開發シ得ヘキモノニ地點五、〇二四馬力ナリ。今之ニ許可水力

四郷川、高見川、水力地點表

順位ニ(一)ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ
水量、落差ニ(二)ヲ附セルハ概定數ナリ

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	水路長	流域面積	發電率	年平均馬力數	等級
一、〇〇四	高見川	四	奈良縣吉野郡高見村 木津 伊豆尾道ノ下	同 郡小右船	洪水* 二九 低水* 五九 平水* 八四	三九六	一二七五 二五九三 三六九二	三〇〇〇	二、六	一〇〇・〇 六、五 八四、三	一、二七五 三、三三三 三、二二二	甲
(一、〇〇五)	四郷川	五	奈良縣吉野郡小川村 鷺家口 神陰	同 窪垣内 國塚村 中垣内	洪水* 七六 低水* 一五四 平水* 二二〇	一五七	一、三二四 二、六八四 三、八三四	二、〇〇〇	七、七九	一〇〇・〇 九、五 八、三	一、三二四 二、五〇一 三、三三三	甲
一、〇〇六	同	番外	奈良縣吉野郡四郷村 扶戸 大日浦	同 小郡 小川村 瀧ノ平	洪水* 二二 低水* 四二 平水* 六〇	* 二〇〇	四六六 九三二 一、三三二	一、八〇〇	二、一四	一〇〇・〇 九、五 八、三	八七、一 一、三三二	甲

地點ヲ合算スルトキハ本川ニ於ケル總地點數三、其ノ馬力數六、五九〇ニ達ス

水力地點ノ説明

順位一、〇〇四 高見川ニ於テ木津ヨリ下流ヲ利用セントスルモノニシテ取入口ニ堰堤ヲ築キ水位ヲ約一〇尺高メテ右岸ニ取入レ隧道約一、四〇〇間開渠約一、六〇〇間ヲ開鑿シテ四郷川ニ放水ス

順位一、〇〇五 四郷川ニ於テ鷺家川合流以下ヲ利用セントスルモノニシテ右岸ニ取入レ隧道約七〇〇間開渠約一、五〇〇間ヲ開鑿シ吉野川ニ導キテ放水ス(其ノ一部分ハ大阪電氣軌道株式會社ニ許可)

順位一、〇〇六 四郷川ニ於テ狹戸ノ右岸ニ取入レ隧道一六〇間開渠一、〇二〇間ヲ開鑿シ日裏谷川合流點ニ放水ス

以上三地點トモ用水、悪水等ニハ關係ナケレトモ流木盛ナルヲ以テ利用ノ際ハ之ニ對シテ相當ノ方法ヲ講スルヲ要ス。順位一、〇〇四地點ハ兩岸ノ山勢急峻ニシテ運搬ノ便ナシトスルモ順位一、〇〇五地點及順位一、〇〇六地點ハ交通至便ニシテ地形概シテ急ナラス。各水力地點ノ使用水量ハ總テ順位二五三測水所ニ於ケル流量調査ノ結果ニ

ヨリテ之ヲ推定セリ

第四節 丹生川

一、流域 地形及地質 本川ハ吉野川ノ下流ニ於テ左岸ヨリ流入スル支流ニシテ其ノ流域ハ東西ニ長クL形ヲナシ面積一〇七八方里ヲ占ム。本流域ノ東部ヲ劃セル山脈ハ大峰山脈ニシテ大天井ヶ嶽(一、四三九米)ヨリ北方吉野山ニ至ル一帶ノ連山ヲ以テ擁セラレ南ハ大天井ヶ嶽ヨリ西方高野山ニ至ル連嶺ニヨリテ劃セラレ熊野川流域ト界ス而シテ西部及北部ハ其ノ支脈ニシテ高サ概シテ低ク何レモ流域ノ西北隅ニ向ヒテ低下セリ即チ地勢ハ南部及東部ニ於テ高峻ナルモ他ハ概ネ傾斜緩ニシテ山低ク丘陵起伏ス。流域内ノ地質ハ主トシテ秩父古生層ヨリ成ル

地目面積表

河川名	地目		山林地				合計
	耕地	原野	針葉樹林	闊葉樹林	針闊混	計	
丹生川	面積(方里)	面積百分率	一、〇三	〇、七	七、三	〇、六	一〇、〇
(大峰山脈以南)			六、五	七、三	七、三	二、二	一〇、〇

林野狀態 一般ニ針葉樹林最多ク上流部ハ植林盛ニシテ赤瀧槇尾附近ニ於テ其ノ狀態最良好ナリ稍下リテ丹生

村ニ至レハ松樹林漸ク多クソレヨリ下ルニ從ヒ雜木林及松林トナリ宇智郡ニ入りテハ概ネ松樹林ヲ見ル。耕地ハ比較的の上流ニ多クシテ畑地ヲ主トシ水田ハ全流域ヲ通シテ約二〇町歩ナルニ過キス

二、河川狀況 水源ヲ吉野郡黒瀧村ニ發シ丹生村、白銀村地方ヲ西方ニ貫流シ宗檜村大字城戸ニ於テ左支宗檜川ヲ合セ西北ニ轉シ賀名生村ニ至リテ屈曲漸ク甚シク宇智郡南宇智村ニ於テ吉野川ニ合ズ。此ノ流路約九里ナリ

宗檜川合流點ヨリ上流ハ概シテ谷稍開ケ岸低ク緩ナルモ城戸ヨリ下流丹原ニ至ル間ハ河川ノ屈曲多ク深溪ヲナシ河床概ネ岩盤ヨリ成ル此ノ間流下勾配平均一三〇分ノ一ニシテ水力ニ利用シ得ヘキハ此ノ範圍ナリトス

三、水利及治水 本川ニハ水田少ク灌溉用水ノ見ルヘキモノナシ。流筏ハ黒瀧村大字長瀬ヨリ下流ニ於テ行ハレ

丹生川水力地點表

順位	河川	番地點	取入口	放水口	水量	落差	馬力數	水路長	流域面積	發電率	年平均馬力數	等級
(1007)	丹生川	八	奈良縣吉野郡名賀生村 和田 大観	宇智郡南宇智村 丹原 柳瀬	湯水* 六三 低水* 一〇三 平水* 二五二	一七〇	一、一八九 一九四四 二、六六八	二、三三〇	九三	一〇〇〇 九五五 八五五	一、一八九 一、八七五 二、四五五	甲

順位ニ〇ヲ附セルハ許可地點ト關係アリ
水量ニ*ヲ附セルハ概定數ナリ

其ノ狀況ハ吉野川本流ト同様ニシテ一箇年ノ流下數量ハ大略次ノ如シ

大正元年	四九七、八八一本
大正二年	四二六、九一七本
大正三年	三九六、五五三本
大正四年	五〇八、四九二本
大正五年	六一二、六八九本
大正六年	三〇六、三九七本
大正七年	五三七、二五六本
大正八年	五六八、〇一八本

其ノ他漁業、舟楫、惡水等ノ關係ナシ

四、水力地點 選定水力地點數一、其ノ馬力數ハ左表ノ如シ而シテ本地點ハ調査期間中ニ於テ水利使用ヲ許可セラレタルモノニシテ其ノ許可馬力數ハ一、三五九ナリ

水力地點ノ説明

順位一、〇〇七 宗檜川合流以下ヲ利用セントスルモノニシテ取入口ニ堰堤ヲ築キ水位ヲ約五尺高メテ左岸ニ取入レ隧道延長約四〇〇間、開渠延長約二、三〇間トス。本地點ハ用水ニ關係ナキモ流木盛ナルヲ以テ之カ流下ニ對シ相當ノ方法ヲ講スルヲ要ス。利用水量ハ順位二五四測水所ニ於ケル調査ノ結果ニヨリテ推定セリ(本地點ハ南海鐵道株式會社ニ許可)

第六章 淀川水系

第一節 概説

本流域ハ近江、山城、攝津、河内、伊賀及丹波ノ六箇國ニ跨リ東ハ美濃、伊勢ノ國境ヨリ西南大阪灣ニ至ル地域ニシテ其ノ面積約五〇六方里ヲ占ム。流域ノ東部ハ鈴鹿山脈ニシテ最モ高ク西ヲ繞ルモノハ中國山脈ノ支脈ニシテ神崎、加古及由良ノ各水系ト界シ其ノ餘勢ハ近江若狹ノ國境ニ走リテ本流域ノ北部ヲ劃ス南ハ三畝山脈、鈴鹿山脈ヨリ岐ノ西ニ走り其ノ末梢ハ和泉山脈トナリテ以テ吉野川水系ト分水セリ。地勢東北ニ高ク西南ニ向ヒテ傾斜シ其ノ中

間南北ニ連互セル比叡、笠置ノ二山脈ニ依リテ之ヲ三箇ノ流域ニ分ツ、而シテ其ノ最高地ハ鈴鹿山脈ト比叡山脈及鈴鹿山脈ト笠置山脈トノ中間ヲ占ムル地域ニシテ前者ハ近江ト山城ノ東南部ヲ包括シテ琵琶湖並宇治川ノ流域ヲ形成シ後者ハ伊賀及山城ノ東南部ヲ抱擁シテ木津川流域ヲ成ス又比叡山脈ノ西方ニ於テ中國山脈ノ東端分裂起伏シ稍急峻ナル山地ヲ成セルモノニ桂川流域アリ。以上三流域ノ中琵琶湖並宇治川ノ流域ハ水力利用上最有望ナル區域ニシテ大水力地點ニ乏シカラサレトモ是等ノ水力地點ハ殆ト水利使用許可濟ニシテ將來利用開發シ得ヘキモノハ何レモ其ノ利用馬力數小ナルヲ以テ本調査ニ於テハ主トシテ木津川、桂川ノ二流域ニ就テ之カ調査ヲ行ヒタリ。而シテ琵琶湖並宇治川流域内ニ於ケル許可水力地點ノ總數ハ二六箇所ニシテ其ノ馬力數ハ實ニ一五六、一二八馬力ヲ算ス

第二節 桂川

一、流域 地形 本川ハ淀川ノ支流ニシテ其ノ流域ハ丹波國北桑田郡船井郡、南桑田郡ノ大部及山城國愛宕郡ノ一部ヲ占メ京都平野ノ北西ヲ圍繞シテ面積五七七方里ヲ